

創立30周年

昭和60年に設立された四国情報通信懇談会は、おかげさまで「創立30周年」を迎えました。この間、多くの役員、運営委員そして会員の皆様に支えられ、今日まで活動することができましたことを、あらためて感謝申し上げます。

そこで、今回の四情懇ジャーナルでは、この「創立30周年」を特集し、これまでの30年の歩みを振り返るとともに、創立30周年を記念して開催される行事についても、皆様にご紹介させていただきます。

まずは、これまで四国情報通信懇談会の活動について先頭に立ってご指導いただきました歴代の運営委員長のお三方(田崎先生、坂本先生、都築先生)に、長年にわたって運営委員を務められた名物運営委員のお二人((株)ハートネットワークの大橋様と東和工業(株)の阿部様)を加えた「歴代運営委員長＋名物運営委員の座談会」を掲載させていただきます。本座談会は平成27年8月28日(金)に四国総合通信局の会議室で実施されたものを再現したものです。ご参加いただいた皆様からは、思い出深いお話や苦労話等、日頃は聞くことのできない貴重なお話をいただくことができました。

次に、運営委員会事務局にて「四国情報通信懇談会の30年の歴史年表」を作成しましたので、掲載させていただきます。紙面の都合もございますので、これまでの四国情報通信懇談会の全ての活動を掲載することは不可能ですが、その時代に四情懇が何に力を入れていたのか、何に興味を持っていたのかが、ある程度俯瞰できる内容になっていると思います。皆様もぜひ、本年表でこれまでの30年を振り返ってみてください。

最後に、今年秋以降に四国四県にて順次開催される「創立30周年記念講演会」の内容についてご紹介させていただきます。いずれも、通常の情報通信セミナーとは一線を画し、記念講演会らしく華やかでお祭りの要素も盛り込んだ内容となっております。会員の皆様におかれましては、ぜひご参加いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



創立30周年 座談会

【開催日】平成27年8月28日（金）
【開催地】四国総合通信局 会議室
【出席者】歴代運営委員長（田崎顧問、坂本前運営委員長、都築現運営委員長）
名物運営委員（阿部元運営委員、大橋元運営委員）
司会（三木情報通信振興課長）

座談会

～30年を振り返って～

（田崎） 四国情報通信懇談会は、昭和60年に当時の四経連の会長が発起人代表となって設立された。平成2年には『ニューメディア』という雑誌に「四情懇の現状と展望」という記事で紹介されている。また、設立10周年記念事業では、四国4県で4元中継のテレビ会議「マルチメディアは四国を飛躍させる」—いま 我々は何をなすべきか—の開催を行った。さらに、設立20周年目には「四情懇のあり方検討委員会」が設置され、その組織・機能及び事業内容について再検討がなされた。



田崎顧問

この30年間には情報化による物凄い時代の変化があり、この早すぎるともいえる変化に我々は如何に適応して来られたかがひとつの大きな反省課題である。これから、四情懇の将来のありようを皆さんと議論していきたい。

（坂本） 私は運営委員長を6年間で都築先生に引き継いだが、私の役割としては会員数をなんとか増やしたいという思いだった。

30年の間に四情懇及び情報通信の意義や役割が変わってきているなかで、運営委員長としての四情懇の行事は、すべて計画どおりに開催することができ、最後に1回だけ中止した事業もあったが、

座談会

とても充実した6年間を過ごすことができた。

ただ、10年ほど前の調査研究事業はしっかりしたものにできあがっていたのに比べて、もう少し内容のあるものにできていたらと反省している。運営委員の皆様のおかげで、走馬燈のようにあっという間に過ぎた6年間だった。

(都築) 自分が大学を卒業してから30年、奇しくも四情懇の創立30年と全く同じ歩みで社会人を歩んできたことに先日気がついた。当時は光ファイバが実用化された頃で、田崎先生が授業でニューメディアと口にされていたことが、かすかに記憶がある。四情懇の30年は僕自身の社会人の歴史とシンクロしてきた。

20年目の活動総括としての「あり方委員会」では役員の任期を決めたことが記憶としては残っている。四情懇の設立当時は、経済界の方が発起人となり経営の話と最先端の技術の話を両輪で、上手く走り出したのだと思うが、現在、ICTが生活の一部で空気のような存在となった中での四情懇の役割は難しく、先をどう読めばいいかわからないというのが正直な気持ちである。



都築現運営委員長

(阿部) 30年前の当社はNEC社特約店としてPBX電話交換機からマイコン、パソコン事業の立ち上げに関わり、ジャストシステムとNECとのパイプ役を担ってきた。当時はインターネットのイの字も理解されない時代であり、目標となるべきものがなかった時代であったが、いろいろな問題を田崎先生へご相談してひとつひとつ解決方法を模索したり、まさに四情懇の30年の歴史が当社の情報化の歴史であった。当初はメインフレームの時代であり、1台のシステムに集約してすべてをまかっていた時代から、ここ20年でサーバーに分散化され、再び現在はクラウドとしてクラウドベンダーが世界中のコンピュータリソースの5割を占めているといわれている。

四情懇としてこの流れをどう捉えてどう取り組んでいけばいいのか、大きなパラダイムシフトのはじまり、時代の潮目を感じている。常にグローバルな視点で自社事業も見直していきたい。

(大橋) 四情懇とのかかわりとして、当社のケーブルテレビ開局当時に衛星通信がスタートし、ケーブルテレビ業界に将来があるのか四情懇活動を通じてヒントをいただければという視点で加入した。当時の四情懇テーマとして「ケーブルテレビ」や「衛星通信」といったものがたくさんあり、ありがたかった。

また、役所の名称が電気通信監理局から総合通信局に替わり、役所と四情懇の関係もくっついたり離れたりましたが、この10年間の活動では積極的に関与していただき、特にセミナーの充実と調査研究への新しい取り組みなどに感心している。

この30年ではブロードバンド化が進み、64kbpsから1Gbpsが当たり前になり、当社では10Gbpsサービスの計画もある。その後ろに低速化の話もあり、IoTなどでは128kbpsあれば十分で、それよりもセンサーのネットワーク構築を必要とし高速化は不要だが数が要る。ブロードバンド化は究極に近いところまできているのではないかと感じている。しかも光でないとできないということではなく、LTEや無線LANでブロードバンド化できる。今後は時宜に応じた使いやすい回線が数多く必要となる。

これからの時代はブロードバンド化を追求するのではなく、産業界と家庭生活をジョイントさせるツールをどうしていくのかという未知の世界へすすむのだろうと思っている。ますます、四情懇として課題を持って取り組んでいただきたい。リタイア組としてエールを送りたい。



大橋元運営委員

～現在までの活動評価と今後の展望～

(田崎) 全国に四情懇と同様の情通懇組織が設立され、当初はいずれも経済界との結びつきがより密接であったと思うが、経産省等による他の情報化関連会議の設立や、情通懇の運営マンネリ化による会員減少の危惧のなか、四国では他地域の情通懇に比べて減少傾向が少ないと感じている。これは四情懇事務局の努力のお蔭かも知れないが、何時までも事務局におんぶにだっこしてではよろしくない、今後は運営委員会が自立して活動していく必要がある。

例えば総会開催時の記念講演会などは、その時々にあった良いテーマが選定され会員への啓蒙に

座談会

なって来ているが、それらが地域情報化のためにどれだけ実際に役立ってきたかは再考してみる必要がある。その一例として、ICT研究交流フォーラムは研究者の発表の場になり過ぎていないか？など。実は、全国でも同じ悩みを抱えていると思う。

(坂本) 私が四情懇に関わっていた時期は、事務局等の動きもよく、会員数を維持することができていた。設立当初からは経済界、特に四経連や同友会、自治体などの会員が抜けていったにもかかわらず、新規会員を確保できていた。

全国懇談会が仙台で開催された際に参加したが、運営委員会が年2回程度しか開催できない地域など運営や会計に苦勞されている地域に比べて、四情懇では運営委員の意思疎通が図られ意識も高く、上手に運営できていると感じられた。ICT研究交流フォーラムは時代のニーズに合致したテーマが総会や定例会で選定されており、交流会の場が会員数増につながっていると思う。



坂本前運営委員長

(都築) IoTの先に興味がある。今、松山市内でセンサーを設置していろいろ行っているがローテク部分で苦勞しており、アメリカの電力会社の話ではセンサーを増やせばブロードバンドで多くのセンサー制御をしたくなるようだ。

全国連絡会に参加して九州地域の運営手法は上手くいっている事例と感じており、過去に四情懇で見学した大分や博多などの地域の最近の活動に興味がある。地域の特性に合った活動を継続していく必要がある。

ICT研究交流フォーラムには強い思い入れがあり、最近では定期的に一般向けセミナーを4県でメンバーが企画しており、スマートメーター、オープンデータなど、旬のテーマで今後も活動を維持していきたい。逆に四情懇の運営委員会は年に2回では足りず、運営委員にコミット、主張して企画を提案していただきたいと思っている。内外視察会も実施し、運営委員にも参加していただきface to faceの会合を必須としたい。

会員数については私も気がかりである。会員のためにはじめた調査研究において、昨年度は3件ともたまたまオープンデータの提案で、成果物にでこぼこはあったが、四情懇としてのメッセージは出

せたと思っている。会員数の増加や会員にフィードバックできているか不安であるが、今後も継続していきたい。

(阿部) 本年ミラノとオランダへ視察に行ったが、ミラノの小規模町工場はつながりとして上手くICTを利用、オランダアムステルダム周辺は農業ICTが世界トップレベルで、日本の一番の遅れは農業ICTと感じている。オランダでは収穫までロボット、日照や温度センサーで自動日除け機能など、どうすればおいしい野菜が畑より工場で作れるか、大学、企業と生産者が徹底研究している。このような取り組みが三位一体で四国でも実施できるよう望んでいる。このような活動も一つの切り口として四情懇で取り組んでいただきたい。



阿部元運営委員

(大橋) 運営委員時代はセミナー企画や内容などの情報がいち早く得られた。最近の四情懇のセミナーにおける有り難い点として、一つのテーマを4県で実施していただけるようになり、社員から参加しやすくなったと聞いている。

今後の活動に期待することとして、自身が通信系でアメリカやバルセロナでのモバイルイベントに参加してみて、マーケティング感覚の遅れ、システムに対するアーキテクチャに世界と日本の相違を感じており、ガラパゴスでないワールドワイド国際的感性をもったテーマ、設立当初のような経済団体との関係を重視した活動を希望したい。自分が運営委員時代にはできなかったことを、今の運営委員にお願いするのは心苦しいが、ぜひとも実施していただきたい。

～これからの取り組み強化点～

(田崎) 商工会議所、商工会において情報化進展に対応した危機感が乏しく、彼らに意識的に危機感を持たせる努力が今後必要で、情報の利活用のノウハウを教えることが必須。ただ、その有効性を発揮するにはICT分野だけでは限界があるので、いろいろな他の分野と連携して活動していくことが四情懇や四国の活性化につながるだろう。

座談会

(阿部) 情報通信分野のみならず他業種のセミナーをテーマとして、例えば農業工業化の第一人者による講演を開催してはどうか。中小企業のICT化は遅れていると思う。ミラノではこの分野はあそこに頼めばできるというネットワークが構築されている。いろいろな部会を立ち上げて異業者との交流を深める必要がある。これまでの講演では海洋堂ホビー館さんの講演は目からうろこが落ちるようなインパクトがあった。

(都築) 異業種交流にはとても興味があり実現させたい。運営委員の積極的活動に大いに期待したい。事務局問題がネックとならないよう気にしている。他省庁団体との連携については前任の坂本運営委員長時代からもアプローチをしていたと聞いていた。

(坂本) 他省庁団体として、例えば商工会議所や情報サービス産業協会など異業種団体と交流するだけでなく、具体的に踏み出す必要がある。例えばオランダの植物工場に比べ日本の植物工場は技術があるにもかかわらず実用化ができていない。

(大橋) 相手が何に困っているかの問題を解決できるソリューションを提案できれば、異業種交流が促進できると考えている。2年前に新居浜商工会議所に情報メディア部会を設置して、他の部会で困っている事の解決策を検討する部会としていたが、他の部会からなかなか相談がなかった。企業として困っている事を弱点としてまき散らしたくない、企業間秘密として公開せず同業者をライバルとする日本企業製造業のDNAが、異業種交流に弊害となっている。

(田崎) ただ情報化の利活用には異業種交流は必須であり、例えば4K、8Kテレビが最近騒がれているが、これらは約20年前に開発されているが使い道を見つけられず眠っていた技術である。本当は、医療にニーズがあるのかが分からなかった。今後はもっと異業種交流を進めて、どの分野がどのような問題に困っているのか、それらの声を聞かなければいけない。このような活動方針を運営委員会で検討して頂き、総務省にもバックアップをお願いしたい。

もし、サクセスストーリーを作成することが出来れば飛びついてくる人が出てくると思う。

(大橋) 各県の運営委員に地元異業種業界とのパイプ役を期待したい。私は、大阪での異業種交流への集まりに若いスタッフを送り込もうとしており、小回りの利いた中小企業のノウハウを活用したい。21世紀は情報通信世紀ともいわれており異業種との交流により、どうアプローチしていくかが課題である。

～最後に～

(田崎) 情報化はこれからもますます変化していくだろう。そのキーワードのひとつとしてはIoT、クラウドなどもあるが、連携して情報通信以外の分野をどう取り込むかが今後の課題であり、ICTをインフラとして理解されていない方たちへの提案を強化しなければいけない。

四国の将来は、ICTの利活用がどれほど成功裡に出来るかにかかっている。四情懇の今後の活発な活動のために関係者のひとりとして今後ともフォローアップを続けていきたい。



【座談会出席の方々の四国情報通信懇談会での略歴】

田崎 三郎氏（愛媛大学 名誉教授）

昭和60年度～平成20年度 運営委員長、平成21～26年度 会長、平成27年度～顧問

坂本 世津夫氏（愛媛大学 社会連携推進機構 教授）

平成19～20年度 運営委員、平成21～26年度 運営委員長

都築 伸二氏（愛媛大学大学院 理工学研究科 准教授）

平成16～24年度 平成26年度 運営委員、平成27年度～運営委員長

阿部 和英氏（東和工業株式会社 代表取締役社長）

昭和62年度～平成21年度 運営委員

大橋 弘明氏（株式会社ハートネットワーク 代表取締役社長）

平成6年度～平成24年度 運営委員

四国情報通信懇談会の30年の歴史年表

年	月日	トピックス
S60	8. 26	設立発起人会開催
	11. 15	第1回総会開催。初代会長に添田喬氏(徳島大学学長)、初代運営委員長に田崎三郎氏(愛媛大学工学部教授)が就任
S61	1. 28	初のセミナー(当時のイベント名は「実務者セミナー」)を松山市で開催。会報「四国情報通信」第1号発行
	10. 24	データベース専門委員会発足
	11. 26	第2回総会開催。会長に門田圭三氏(南海放送社長)が就任
S62	4. 28	初の管内見学会「四国情報ネットワークサービス、四国電力」開催(高松市)
	5. 30-31	初の展示会「四国ニューメディア展」開催(松山市)
S63	5. 27	四国地域情報化促進専門委員会発足
	7. 6	SHIP-NET(当時の四情懇の情報交換システム)利用活用委員会発足
	7. 13	ハイビジョンに関する専門委員会発足
	9. 2	初の管外見学会「大分県ソフトパーク」開催(大分市)
H元	8. 29	衛星通信利活用調査委員会発足
H2	3. 16	四国における移動体通信の普及方策に関する調査研究会発足
H3	8. 19	四国におけるCATVの普及促進に関する調査研究会発足
	11. 28	第7回総会開催。会長に添田喬氏(徳島文理大学学長)が就任
H4	2. 13	情報通信政策委員会発足
	4. 28	初の研修会(テーマは「ネットワーク技術」)開催(松山市で計5回実施)
H5	1. 26	四国におけるISDNの利活用に関する調査研究会発足
	4. 19	会報誌「四情懇ジャーナル」No.1発行
	5. 20	地域情報化ハンドブック検討委員会発足
	6. 26	情報通信政策委員会が「21世紀における四国地方情報通信ビジョン」策定、四国電気通信監理局長へ提言
H6	9. 13	四国情報通信基盤統計調査研究会発足
	11. 28	第10回総会でテレビ会議「マルチメディアは四国を飛躍させる」実施
H7	5. 16	四国PHS通信サービス利用形態調査研究会発足
	11. 20	情報通信政策委員会が「情報通信による四国の活性化施策」策定、四国電気通信監理局長へ提言

	11. 30	第11回総会開催。会長に伊東弘敦氏(四国旅客鉄道社長)就任
H8	3. 15	四国地域のコミュニティ放送の運営展開に関する調査研究会発足
H9	8	四情懇ホームページをアップ
H10	2. 10	情報通信政策委員会が「四国の情報化のために～情報リテラシー」策定、四国電気通信監理局長へ提言
	2. 16	四国におけるテレワーク導入に関する調査研究会発足
	12. 9	地上デジタル放送部会発足
H11	7. 21	情報通信政策委員会が「21世紀 四国の選択～フォローアップ版」策定、四国電気通信監理局長へ提言
H12	5. 19	学校教育における情報通信の利活用に関する調査研究会発足
H13	8. 21	情報通信政策委員会が「四国における高速インターネット環境の整備方策～地域ニーズに合った情報化支援のあり方～」策定、四国総合通信局長へ提言
H14		「地方自治体における情報化支援実施後の実態調査」実施
H15	4. 24	第18回総会開催。会長に川本和明氏(香川大学名誉教授)が就任
	7	「地方自治体における情報化支援実施の現状と課題」発行
H16	9. 2-3	平成16年度全国地域情報化推進連絡会を松山市で開催
H17	3. 15	「四国地域IPネットワーク構想～地域による 地域のための 情報化を目指して～」策定、四国総合通信局長へ提言
	4. 15	第20回総会開催。松山市長・中村時広氏が「『坂の上の雲』のまちづくりについて」記念講演
H18	1. 18	20年の活動総括として四国情報通信懇談会あり方検討委員会発足
	3. 23	「四国情報通信懇談会あり方検討委員会提言書」を会長へ提言
	9. 30	初の会員委託調査研究活動を採択
H19	2. 7	四国情報通信ビジョン検討部会発足
H20	10～2	「地上デジタル放送」をテーマに地域情報化研修会を四国四県で開催
H21	4. 22	第24回総会開催。会長に田崎三郎氏(愛媛大学名誉教授)、運営委員長に坂本世津夫氏(高知大学国際・地域連携センター教授)が就任
	11～	「クラウドコンピューティング」をテーマに地域情報化研修会を四国四県で開催
H22	12～	地域特性に応じたICTの活用に関する調査研究を実施
H23	5. 26	第26回総会でICT研究交流フォーラム設置
	6. 3	ICT研究交流フォーラムが第1回技術セミナー(キックオフセミナー)「四国におけるICT研究開発事例の紹介」を高松市で開催

	11. 17	ICT研究交流フォーラムが初の技術勉強会「四国におけるスマートメータ実証実験の事例分析～四国でスマートメータを普及させるために～」を松山市で開催
H24	1～	愛媛県上島町にてICT利活用普及促進活動
	9～	「ビッグデータの分析・利活用に関する研修会」を四国四県で開催
	10～	「地域のICT利活用を推進する人材育成研修会」を四国四県で開催
	11. 30-12. 1	「ICT利活用 瀬戸内海サミットin上島」開催
H25	4. 24	第28回総会でコンテンツ部会設置
	10. 22	管外視察研修会(広島市)で中国情報通信懇談会と意見交換
	11. 1	コンテンツ部会が専用ホームページを公開
H26	7. 8	コンテンツ部会が「四国コンテンツシンポジウムin道後」開催
	7～	会員委託調査研究活動でオープンデータに関する提案3件を採択
	9. 17	コンテンツ部会が作成した四国内自治体の公衆無線LANマップを専用ホームページにて公開
	9～	「モノのインターネット(IoT)を学習する研修会」を四国四県で開催
	12. 19-20	新居浜市オープンデータ アイデアソン・ハッカソン開催
H27	1. 28	管内視察研修会「愛媛大学ICTオープンキャンパス」開催
	5. 13	第30回総会開催。会長に松田清宏氏(四国旅客鉄道会長)、運営委員長に都築伸二氏(愛媛大学大学院理工学研究科准教授)が就任
	10～	創立30周年記念講演会を四国四県で開催

創立30周年記念講演会各会場の開催内容のご紹介

会場名	開催時期	テーマ	プログラム等
愛媛 会場 (ホテルサンルート松山)	27.10.20(火)	四国地域情報化 連携サミット	<ul style="list-style-type: none"> ○田崎三郎氏の特別表彰式 ○田崎顧問による特別講演 「ニューメディアからIoTへ」(仮題) ○パネルディスカッション 「各県団体の活動紹介」「地域課題の解決に必要な地域連携とは」「地域情報化推進団体にとっての地方創生とは」 コーディネーター：四情懇 都築運営委員長 パネラー： e-とくしま推進財団(徳島県)、かがわ情報化推進協議会(香川県)、愛媛県 I T 推進協会(愛媛県)、地域情報化事業導入検討会(高知県)
香川 会場 (e-とびあ・かがわBB スクエア)	27.11.6(金)	四国 I C T 女性 シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> かがわ情報化推進協議会と共催 ○基調講演 地域情報化アドバイザー 田澤 由利氏 ○パネルディスカッション 「地方創生と I C T ~輝く女性からの提言」 コーディネーター：かがわ情報化推進協議会 佃副会長 パネラー： 医療ICT、尾形優子(メロディーインターナショナル(株)代表) 介護ICT、永井智恵子((社)敬世会常務) 子育て情報、中橋恵美子(NPOわははネット理事長) 映画監督・脚本家、香西志帆(百十四銀行)
徳島 会場 (とくぎんトモニプラザ)	27.12.6(日)	地域課題を解決 する地域アプリ・ アワード!!	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域課題を解決する地域アプリ」の発表 四国大学、弓削商船高専、新居浜高専、香川高専 高松キャンパス、高知高専の各学生代表による 発表、プレゼン ○特別講演 Code for Tokushima+Code for DOGOによる地域 アプリ開発に関するトークセッション ○表彰式
高知 会場 (高新文化ホール)	28.2月下旬頃	ブロガー イケダハヤト氏 のトークショー	<ul style="list-style-type: none"> ○イケダハヤト氏の紹介 ～テレビ高知の取材番組(イントロ)～ ○I C T お国自慢 「ブロガー・イケダハヤト氏のトークショー」 2～3部構成 ○フリーディスカッション